

第二編 業務整理

錦帯橋の再建工事は起工より竣工迄二年一ヶ月余を費したが、その事業としての業務は錦帯橋建設局（課）存置期間及び廃止後の残務整理期間を合算すれば実に三年八ヶ月の長きにわたって執行された。此の間行われた常例の庶務については此処に特筆の要を認めないが、錦帯橋の再建事業なるが故に特に必要を生じ或は重視された主なる業務整理事項につき少しく言及しておきたいと思う。

一、特種整理事項

(1) 諸記録の整備

錦帯橋の再建事業は之を行政及び財政面から見れば岩国市は勿論のこと国及び山口県にも多大の影響を齎した問題であるばかりでなく、更に技術的に見れば単に文化財ということよりも土木、建築工事に特異の存在として各学界注目の的となっていた。殊に原型復旧とは言うものの、構造上数多くの改善が行われ、その効果に対する批判は今後に残された宿題であるだけに、建設局としては図書、写真、映画にと能う限りの詳細な記録をとどめ、将来に於ける参考に資するよう留意した。

イ 図 書

(一) 工事設計書及び設計図

設計書及び設計図共に当初設計より最終設計に至る設計の推移を明細に示し、施工上一点の疑惑を挟む余地のないものであることを確信する。設計図は一般図、詳細図等を併せ約四十葉に達する。

(一) 工事日誌(出面日報)

着工より竣功迄の工事進捗状況、資材及び労務の動きを克明に記載す。

(二) 局日誌(気象日報)

建設局発足以来廃止に至る迄の工事概要、重要文書の発受、気象概況、人事、主要な出来事等をとどめ、気象日報は必要に応じ測候所その他よりの気象情報を記録して施工上の貴重な判断資料とした。

(三) 工事台帖

各部工事の設計金額、請負人及び請負金額、契約の概要、工事費の支払状況、資材の受渡を明確ならしむ。

(四) 工事契約書他一件書類

工事別に起工、設計変更、契約、支払又は受渡関係等の書類を系統的に整理綴込み、工事が如何に厳正公平に行われたかを雄弁に物語るものである。

之等の図書は岩国市条例の示すところにより夫々必要な期間岩国市役所(総務課)に保管されることになっている。

ロ 工事写真

(一) 普通写真

工事の各段階を示す記録写真は建設局に於て撮影(キャビネ版)し一応アルバムに収録し約八百余に達したので更に流失及び渡初式当時の写真を併せて「錦帯橋再建記録写真帖」を編集して建設省、山口県、岩国市に於て保存す。

普通写真より別に記録映画として準備を怠らざりしこと、その結果として、此の写眞は佐藤博士演説の際進行し、公民、伊太士の撮影に係り補足的に西岩国の梶井誠氏に委嘱して撮影せしむ。此の写眞は佐藤博士演説の際進行し、公民、伊太利等に於て錦帯橋の宣伝に利用された。

ハ 記 録 映 画

(一) 十六ミリ映画の製作

写真のみでは工事の状況を知るに充分でない憾みがあり、工事の経過を単的に描写するには映画が最も理想的である。建設省、文化財、新聞社等でも錦帯橋再建工事の記録映画製作につき考慮もしていたが、之が製作には何分にも多額の資金を要するし、その製作の目的も工事を主にした技術的映画、教育宣伝をねらった文化映画等必ずしも一致しないところもあつて実現困難の見透しが濃厚であつた。然し岩国市は飽く迄記録映画撮影の意図を持っていたので、資金を余り必要としない「十六ミリ映画」の製作に予算二十万円で着手することとした。即ち市内装束在住の杉本信恵氏に委嘱し、殆ど同氏の奉仕的努力によつて、昭和二十七年三月上旬より完成迄約一ヶ年に亘り、建設局指導下に木材の検収、運搬、橋脚工、橋体工、床固工事の各段階及び之等の工事を中心にした付近の風景（百数十場面）を十六ミリフィルムに撮影、十一巻一千呎余に収録した。

此の映画は同氏の手によつて場面を更に系統別に整理し、タイトルを附して公開する予定であつたが、同氏の急逝によつて此の計画は挫折し、未完成のまま岩国市役所に一応保管している。適當の機会に整理完成の要あらんも仮令未完成のままであつても公開すれば面白い場面もあつて観衆を喜ばせ、同時に再建工事の内容を認識して貰う良い資料たるを信じて疑われない。茲に故杉本氏の長期に及ぶ尽力と功績に対し心から深厚な敬意と感謝を捧げるものである。

(二) 教育宣伝映画の製作

前述した如く錦帯橋再建に關する記録映画は各方面で要望され企図されたがなかなか実現しなかつた。その中キジャ台風による錦帯橋流失当時の記録的な映画撮影に成功している読売新聞社が教育宣伝映画の製作を計画し、その活動漸く表面化せんとした昭和二十七年四月頃……岩国市に於て十六ミリ記録映画製作に着手直後……毎日新聞本社事業部に於て同様の記録映画を企劃し同部顧問羽太文夫氏をして建設省、文化財保護委員会の要路者、佐藤、青木両博士、山口県及び岩国市当局を奔走説得し、次の構想下に読売新聞の御株を取つて撮影開始を決定してしまつた。

(a) 文化財保護委員会の外郭団体として財団法人文化財協会が誕生し文化財に關する事業を強力に推進することになつたのを機会にその第一着手事業として同協会に錦帯橋の再建記録映画を製作せしめ、映画は永久保存とすること。

(b) 此の映画製作に要する資金約三百万円の中百五十万円は東京方面で取纏め、残余の百五十万円は地元(山口県及び岩国市)に於て負担して貰うこと。

(c) こうした記録映画の製作には最も優れている東宝系の平松プロダクションに担当せしむる。

(d) 製作した映画の版權は文化財協会にあるが、その宣伝には毎日新聞社の全国移動映画版が当ること。

(e) 此の記録映画製作についての運営力を強化する為文化財協会内に錦帯橋記録映画製作委員会を設けること。

観光地百選以来錦帯橋と因縁浅からぬ毎日新聞社としては当然のことかも知れないが、強引にここ迄持つて来たその裏面には多分に読売新聞社との競争意識が動いたからに外ならぬように思われる。

とに角右の構想は着々実を結び、委員会も発足し、昭和二十七年七月中旬より平松幸彦外数名より成る撮影班が岩国に派遣され、建設局指導のもとに現地ローケーションが始められた。この撮影に關するシナリオの作成、撮影

修正補足の必要も生じ、撮影班と地元関係者との間、又の協議会を開き、撮影班の要望の如何、工事進捗の如何の積極的協力に遺憾なきを期することとした。

(e) 開催日時 昭和二十七年十月十八日

(b) 同 場所 錦帯橋建設局事務所

(c) 出席者

平松プロ側 シナリオライター 小野春夫、撮影監督 竹内信次、撮影技師 川村浩士

地元側 永田新之充、岩国市商工観光課長 田島元、棟梁 篠原経一

司会者 錦帯橋建設局次長 品川 資

(d) 協議事項

1 錦帯橋の由来及び建設史に地元として取入れを希望する事項

2 観光岩国という立場から錦帯橋以外の事で解説及び画面に取入れを可とする事項

3 工事撮影に関し工事関係の撮影班に対する要望事項

4 その他

(その結果は撮影企劃上の資料として建設局は設計図書その他多数を徴古館、岩国保勝会よりは元録年間の設計図建設日誌、西湖誌、横山地形図、その他を提供)

平松プロダクションによる撮影は七月十七日より一週間橋脚工事、十月十五日より約一ヶ月間橋体工事、昭和二十八年一月十四日より一週間渡初式の状況、四月十日より三日間桜風景を主とした対象に実施せられた。

此の映画は海外宣伝用として純技術的のもの二巻(二千呎)、国内観光宣伝兼用のもの二巻として近く完成の見込みである(昭和二九、五、三一日現在)

尙錦帯橋記録映画製作委員会役員名簿、記録映画「錦帯橋」のシナリオ等次の如し。

錦帯橋記録映画製作委員会役員名簿（五十音順）

顧問

内田 祥三
（文化財保護委員会委員）

内山 岩太郎
（全国災害復旧速進連盟）

高橋 誠一郎
（文化財保護委員会委員長）

田中 竜夫
（山口県知事）

仁木 謙吾
（山口県議会議長）

目黒 清雄
（建設省河川局長）

森田 孝
（文化財保護委員会事務局長）

委員

青木 楠男
（工学博士）

有光 次郎
（文化財協会理事）

老岐 敏夫
（東洋木材防腐株式会社取締役）

浦谷 吉雄
（文化財保護委員会記念物課長）

小川 実
（岩国市会副議長）

○賀屋 茂一
（建設省河川局防災課長）

○金沢 雄兔
（三井化学株式会社）

○蒲生 芳郎
（文化財保護委員会企画連絡課長）

久能 寅夫
（岩国市長）

委 員 三 郎
（岩国市長）

森 田

孝(兼任) (文化財保護委員会事務局次長)

○印を常任委員とする。

記録映画

『錦

帯

橋』

製作 財団法人 文化財協会

製作意圖

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の役の結果、それまで中国地方に覇をとんでいた毛利氏の一族があやうくその全領土の没収を免れ、防長兩國に止まることになった時、周防東部の地を領有する事になったその支族吉川広家は、岩国を居城とし、横山を藩政府の所在地に、錦見を城下町と定めた。

この横山と、錦見との間には美しい錦川が流長二十五里(一〇〇軒)のけわしい山に地境をぬけて、ようやく開けた幅百間(約二〇〇米)の静かな流れとなって横たわっている。

藩再建の意図に燃えた人々は、横山の山上に天守閣を築き、錦見の里には商家が軒を並べて、錦川の川尻には新田を開いていったが、元和元年(一六一五)幕府から武家諸法度が発布され、新築間もない天守閣は勿論、岩国城の取毀しを命ぜられた。

不屈な岩国の藩民は、この再度の悲憤を岩国文化の創造に傾け、当時指導的役割をはたしていた儒学を通じて、学問に芸術に精進した。

この地方の気候と地勢とは、大雨のあとの流量が示す如く、常に豊かな錦川も一変すれば、何ものをも壊すこととなり流れて去ってしまうたくましさを持っている。

この自然の環境と、藩民の悲憤とがどのような関係にあるかは知らず、今から二八〇年前延宝元年（一六七三）に横山と錦見とを結ぶ全長百間（約二〇〇米）の橋が兩岸の人々の手によって、この土地の木材、石材のみを用いてしかも如何にすさまじい流量にも堪え得る橋として、その美しい姿を錦川に浮べたのである。それは当時の最高の技術を集めたものであるばかりでなく、その様式の稀なる点と共に、現在における木造構造の最優秀なものに匹敵しているものである。

これが日光の神橋、甲州の猿橋と共に日本三奇橋の一つに唱われている岩国の錦帯橋であり、大正十一年三月文部省指定名勝に入れられた。

処が、昭和二十五年（一九五〇）この橋が完成してから丁度二七九年目に日本全国を荒し廻ったキジア台風によって再びその美しい姿を見る事が出来なくなってしまうた。

錦帯橋を失った岩国の人々の悲しみは、かつての天守閣を取毀した当時の悲しみにも増して大きなものであったに違いない。

然し、その悲しみは今や独り岩国だけのものではなく、吾々日本人全体の悲しみでなければならぬ事を今の世代は求めている。

何故か？

それは、単に橋の形が美しいばかりではなく、その構造が学問的に見て立派に日本の文化財としての価値を有していたからである。

従ってその復原が国を挙げて進められる事になった。建設省は巨額の補助をその再建に投じ、山口県、岩国市はその財政を傾けてこの文化財の復元につとめることとなった。

勿論ここには近代技術を取り入れ、水に強い橋脚を築き、長い間の雨露に耐える橋梁とする為に化学薬品が用いられた。

錦帯橋は、来る昭和二十八年（一九五三）三月、美しく復原し、再び錦川にその姿を映すこととなろう。

然し完成してしまつては、唯その美しさを愛でるだけに止まりその構造を知り後世にその技術を伝える事は出来ない。従つてその技術を語る歴史も共に消えてゆくであらう。

ここにこの映画を企図し、橋の築造過程を記録し、後世に伝える貴重なる資料とし、併せて名勝錦帯橋の優美さを国内は勿論、広く海外にも文化財としてこの稀に見る世界的な技術の紹介につとめるものである。次にこの記録映画の大体の構成を示す。

構 成

○ 第一 段

この地方の地理的説明

錦川沿岸の地形的解説描写

並に 人文的説明

○ 第二 段

錦川上流よりこの地域に至る森林地帯と水との有機的な関係

更に 木材と人絹工場等 産業関係の解説描写

このような環境の中に忽然と美しい錦帯橋が現われる

建造当時の時代描写

○ 第三段

日本三奇橋としての錦帯橋

諸外国に於ける有名な橋（特に同時代に建造されたもの）の数々

錦帯橋が二〇間（三十七米）もある木造スパンを存する特異な橋である事

しかもそれが二八〇年も前にあつた技術であり 今日も尙その技術が遺されてきた事

その保存方法に就いて

○ 第四段

この技術は 幾度かの風雨に耐えてきた

処が 昭和二十五年（一九五〇）キジア台風によって流された

何故 流されたのであろう

そして その被害状況は？

(第二巻終り)

○ 第五段

復原と技術の再現

構造上に於ける細部の解説描写

橋脚に就いて (河床に就いても含む)

橋梁に就いて (橋脚との接続に就ても)

○ 第六段

技術の世襲と科学とに就いて

木材の防腐作業とP・C・Pの作用に就いての解説描写

○ 第七段

第一橋 第二橋 第五橋 第四橋 第三橋と組上ってゆく描写

(第三卷終り)

○ 第八段

関係官庁を始め多くの人々の手によって完成された錦帯橋

横山に咲く老桜

錦川の水に映ゆる橋と山の緑り

渡り初めの行事

街の祭り 人々の喜び

久遠にその姿を遺すであろう錦帯橋の遠望と錦川の流れ

——終り——

(第四卷終り)

附

以上の製作意図並びにその構成にもとづいて、次に映画「錦帯橋」の製作費総額を企画予算案として記す。映画の製作費は脚本完成後、諸条件を調査した上、最終的に且つ詳細に決定すべきものであるが、この映画の特殊性によって脚本執筆と撮影作業とが平行して行われる等、又長期にわたる製作期間をよぎなくされており現在詳細な実行予算の算出が不可能である為、本予算は従来の経験に基き算出したものである。然し大体実際と著しい相違はないと考えられる。

製作費総計

三、〇二五、〇〇〇・〇〇

内訳 1 直接経費

二、七五〇、〇〇〇・〇〇

2 間接経費

二七五、〇〇〇・〇〇

1 直接経費内訳

イ	企画費（企画の為の関係方面との交渉費並脚本完成までの調査費等）	八〇、〇〇〇・〇〇
ロ	脚本料（脚本執筆者への報酬）	八〇、〇〇〇・〇〇
ハ	演出料（演出家への報酬で月額 20,000.00×10ヶ月）	二〇〇、〇〇〇・〇〇
ニ	撮影料（撮影技師への報酬で月額 20,000.00×10ヶ月）	一八〇、〇〇〇・〇〇
ホ	照明料（照明技師への報酬）	四〇、〇〇〇・〇〇
ヘ	録音料（録音技師への報酬）	四〇、〇〇〇・〇〇
ト	効果料（凝音係への報酬）	二〇、〇〇〇・〇〇
チ	音楽費（作曲、指揮、演奏、雑費を含む）	一一〇、〇〇〇・〇〇
リ	解説料（アナウンサーへの報酬）	三三、〇〇〇・〇〇
ヌ	製作準備費（脚本印刷機材整備等の為）	六〇、〇〇〇・〇〇
ル	特殊技術費（ミニアチューター図解、特殊撮影の為に）	六〇、〇〇〇・〇〇
ナ	機材消却費（製作機材借用並消耗費として）	一一〇、〇〇〇・〇〇
ワ	出向人件費（演出助手一名月額 15,000.00×10ヶ月）	
	（撮影助手一名 " "	
	（外一名臨時助手 @ 1,000.00×50日）	
	計	三五〇、〇〇〇・〇〇
カ	ロケーション費（一日、日だて 1,500.00×5人×50日）	三七五、〇〇〇・〇〇
ヨ	フィルム費 ネガ 一〇、〇〇〇呎 @ 一九・五〇（呎当り単価）	

ラッシュユ	一〇、〇〇〇呎	九・七〇
サウンド	六、〇〇〇〃	一二・〇〇
D・P	六、〇〇〇〃	九・七〇
初号	四、〇〇〇〃	七・九〇
現像料	三六、〇〇〇〃	二・〇〇

計

タ 録音費 (ダビング・ルトム・レンタルで巻当り 15,000.00×4巻)

レ 業務費 (製作資金を集める為の特殊経費)

ソ 雑費並予備金

2 間接経費に就いて

(直接経費の一割をこれに当て、製作委員会経費並びに各種公課、建物機材、電気代、水道代、各種消耗費、事務人件費並びに用品費等をこれによつてまかなう)

五三三、〇〇〇・〇〇
 六〇、〇〇〇・〇〇
 二〇〇、〇〇〇・〇〇
 二〇〇、〇〇〇・〇〇
 二七五、〇〇〇・〇〇

『錦 帯 橋』

協 賛

建 設 省 文 部 省 山 口 県 岩 手 市

財団法人 文化財協会・作品 後 援

三井化学工業株式会社
 東洋木材防腐株式会社
 日本瀝青工業株式会社
 毎日新聞社

考 証

工学博士 佐藤 武夫

工学博士 青木 楠男

企 画

金 沢 雄 兎

製 作

平 松 幸 彦

脚 本

小 野 春 夫

製作意圖

(F・I)

1 木の古風な橋がつくられている。

(スーバー)

題 名

スタッフ

その他のタイトル

2 この橋は有名な錦帯橋で、いま第五橋の建造中である。

3 瀬戸内海

空からみた美しい海岸線。

4 岩国に近い海と陸

空からみると海にせまった丘陵と、海岸にそって

鉄道と自動車道路が走っている。

撮 影

大 小 美 津 一 川 村 浩 士

音 楽

竹 内 信 次

演 出

杉 山 正 美

いま、ここに造られている橋は、昔から日本三番橋の一つとして名高い岩国の錦帯橋である。

岩国は広島に近い瀬戸内海にのぞんだ山口県の東にある都会で、その昔、この町を流れる錦川によって木材、竹、棉を運び、竹細工や織物の産業を生み出していたが、近代工業の発展とともに人絹、紡績の繊維工業や、近代的製紙工業が新しく栄えて、今日では日本

—その間にスーパーで中国地方の地図がバラ出し
される—

5 鉄道にそってゆくとやがて岩国駅

6 岩国駅附近の新市街と呼ばれている工場地帯

7 錦川を空からさかのぼると、岩国山の丘を曲ると
岩国の古い街の家なみがひしめき合っている。

8 古い町、その昔京都になぞらえてつくったという

岩国の町、幾筋かの道路と家根。

9 岩国の錦見から川向うの横山、それをつなぐ錦見
橋。

美しい錦帯橋。

(F・I)

10 城山

錦川の河原からみた城山、朝もやが立ちこめてい

(F・O)

有数の工業都市となった。

この近代的な工業基地を築きあげた錦川をさかのぼると、城山と岩国山の翠がその麓を抱いているところ
同じ町岩国、ここは海に近い工場地帯とは対蹠的に、
三百年の封建的な夢を捨てかねたような城下町であ
る。錦帯橋はここに架けられている。

この橋は昔から「天の橋やら錦帯橋は落ちも流れも
しわしない」と唄にもうたわれていたのに昭和二十五
年のキジヤ台風に流されてしまったが、一億二千万の
巨費と二十二ヶ月の日子を費して昔のままの姿で、い
ま復原しつつある。この映画はその工事を記録したも
のである。

岩国は今から三百五十年前、吉川広家がこの地に城
を築くまでは、錦川の両岸に垂れ幕を垂れかけていて民家

11 山の頂

城山の頂上、もとの城跡「大手門」「本丸」の標札がたっていて、崩れた石崖、本丸跡の荒れた風景。

12 藩の地図

当時の城下町、横山、錦川、錦見の関係をみせて――

13 城山より見下した横山

14 吉川家の塀

うららかな秋の陽射しにしづむ白い塀。

15 元の家老の家

豪華な金具のついた門、怪談めいた開かづの門の横、くぐりを入ると、昔の面影をとどめた古い家。

16 昔の武家屋敷

一六〇一年、慶長六年広家が横山に藩政府をおき、その山上に天守を築いたのであったが、その後徳川幕府の政策により新築間もない天守閣は勿論岩国城の取りこわしを命ぜられた。これがその城跡で崩れた石崖一木一草にも往時の強者共の夢を残している。

そして、この当地の藩地図にみるごとく、城山の麓横山には藩政府や吉川家、その他高格武士の屋敷をおき、錦川をへだてた錦見には普通の武家屋敷や町人町を建てたのであった。

昔の武家屋敷の崩れた塀や門がならぶ道。

17 商店街

岩国銀座の商店、二階は古のままの土蔵造りで、一階は近代的な店。

18 商店街

銀座の真中に、ふいごでトンテンカンとやる鍛冶屋がある。といえば人は一寸驚く。

その一軒——黒く煤けた店先きに「元刀匠国重」と標札をかかげて一応昔の身分を誇りつつ、鋏や鎌を陳列しているところにも、この町らしい風情だ。

鍛冶場で鋏を打つこの家の主、世が世ならといった面魂。

19 藩の地図

錦川にそって上流にカメラをふる。

20 錦川上流

深い谷を嚙んでゆく急流、そして淵となる峻わしい錦川上流。

21 水害の跡

うち続く台風にまだ回廊の手もとどかない錦川流

吉川広家が岩国をひらいてより約三百五十年をえた今日、なお往時を偲ぶ数々の姿をとどめていることはその頃の岩国が如何に栄えたかを物語るものである。

記録によると、藩政府のある横山と、武家屋敷や町人町の錦見との間の交通は、はじめは渡舟によってなされていた、とある。

しかし、両方の往来が日とともにはげしくなつてゆく有様では、ついに錦川の交通は渡舟によつては不便になつた。

それ故幾度か土橋や柴橋を架けて往来の便利を計つたようであったが、もともと錦川は二十四里の間ほとんど峻わしい山嶽の間を流れているので水勢ははげしく数日の雨降りですぐ洪水となり、山を流し家を呑み

城の水害時。

22 満々と水をたたえて流れる川

(O・L)

23 古文書

錦川の架橋についての記録、幾度か橋が架けられたことを示す古文書。

24 吉川家の墓所

広嘉の墓。

25 猿橋

26 古文書

独立の模写になる西湖の図。

27 絵

組出し欄干橋。

数々の悪徳をその流環の民にあたえることは今日もあまり変りがない有様で、まして当時の簡単な土橋ぐらゐではすぐ流され、城下の不便甚大なり、と記録にある通りであった。そのため流れない橋を架けることが岩国の上下を通じた希望となった。しかし普通の架橋ではこの急流に耐えられなかったが、三代吉川広嘉に至りて苦心研究の結果遂に三百年の今日世界に誇るべき名橋錦帯橋を作ったのである。

広嘉が錦帯橋の構造法を考えだした起源についてはいろいろの伝説があつて未だ明らかなものではないが山梨県にある猿橋の突出梁橋の原理である一種のアーチ形の発展したものであるところからこれにヒントを得たと伝えられている。また一説には支那より帰化した僧の独立より、西湖の話を引き、さらにその書を得て、いままでの橋のように一橋に数本の橋脚をたてるという考え方を破つて、数個の島を築いて島から島へ橋を渡すという着想を参考にしたとも伝えられている。これらの記録によつて想像されることははじめ広

28 絵

雲帯橋。

29 古文書

延宝元年錦帯橋構築日誌。

30 昔の設計図

(プレートを一枚一枚めくるような感じで——)

31 昔の絵

錦帯橋の古画、奥女中の駕がみえる絵。

32 広場

原寸型版を楯の形に組み合せている大工たち、そ

嘉は川の中に島を築いて高い橋を架けるといふことから出発し、高い橋を架けるには当時庭園に広く用いられていた組出し欄干橋、雲帯橋の各様式を取入れた拱橋式の架橋となったものであろう。かくして十年近くの歲月をついやし苦心研究の結果ようやく創案成るに及び、一六七三年、延宝元年六月工を起し十月遂に世界を通じて今日に至るも他に見ることのできない木造の五連の橋を築きあげたのであった。この橋の建設の動機が洪水に流されない橋の慾求から出発したとはいえ、今より三百年の昔に於いて土木建築の技術的學問や機械器具もみるべきものがなかつた時代に、かくの如き橋梁建築をなしとげたことは日本民族の誇りとするところである。

この橋も翌年の洪水に流水したため橋脚と河床を改めて再建し、それより橋梁は二十年を一期とし各反橋を交互に架換えて今日に至つたのである。

橋は度々架換えられたが、その構造は昔の原型のまま

33 模 型

橋の構造を示す。

(F・O)

(F・I)

34 颯 風

昭和二十五年キジヤ台風。

35 流失寸前の錦帯橋(スチール)

36 流失した錦帯橋の跡

37 洪水跡の錦川

さんざんに破壊された錦帯橋の跡。

38 腐敗した橋脚部のアップ

39 東洋木材工場

工場広場に積まれた木材の山。

橋の再建用木材は全国からこの工場に集り、

相伝と決められていた。それ故その技術の伝承については、昔から伝えられた原寸型板によること、大工のかんに頼るといふ方法がとられている。

かくの如く我等日本民族の誇るべき文化財で世界にその名をうたわれていた錦帯橋も昭和二十五年キジヤ台風によって惜しくも流失したのであった。

錦帯橋を失った岩国の人々の悲しみは、独り岩国だけのもではなく、吾々日本人全体の悲しみであることとを身をもって体験した。それは単に橋の形が美しいばかりではなく、その構造が現在の進歩した建築学からみても尙かつ偉れた技術であり、しかも高い芸術性をそなえていて日本の文化財として世界に誇り得るものであるからで、従って、その再建が国をあげての声となつて、ここにそれが実現されることとなつた。しかしこの復原にあたっては単に昔をまねるといふのではなく、近代技術を取入れ、名橋をして永久的存在たら

PCP 注入タンクに入れられる。

40 三井化学目黒研究所

PCP の比較実験。

(WIPE)

41 橋脚部の新旧構造の対比

(実写とミニチュアとによる説明)

42 石垣がモザイクされて出来上った橋脚部

43 河底に見える敷石、美しい水が流れている。

44 出来あがった第五橋より第一橋にカメラパンして更に中央の第三橋え。

45 第三橋工事場

まだ足場がかかってない第三橋。

46 第三橋部分に足場が組まれてゆく

川の中に蜘蛛の糸のように組まれてゆく足場。

47 川畔の馬場

大工の小屋では、多勢の大工さんたちが原寸型板に合せて墨をひいたり、線を打つところに印をつけ

しむるよう工夫されたのである。

橋に使う木材には虫と腐敗を防ぐためとペンタクロールフェノール略してPCPを注入して腐敗による架替の期間をのばすことが研究の結果立証された。

ここに出来あがった第五橋と第一橋とは普通の木橋に少し反りが大きいだけで、構造の上では変りはないが、二、三、四橋は、美しく空を切り反り橋の所謂錦帯橋の粹を集めたもので、この三橋は同じ構造であるので、第三橋をもって代表することにした。

その一方では墨の目によって木や鉄を切った、
錆つたりしてゆく、大工さんたちの鋸や鉋は如何に
も日本的だ。

48 川畔の馬場

馬場では第三橋の仮組立がすすんでいる。

49 第三橋の足場が完成した。

水平木も中心線もきめられる。

50 足場の上を材料が運ばれる。

51 橋脚部の上部の杓の部分に一番桁が差込まれる。

三橋の架橋工事開始。

このようにして五列に一番桁が並び、次いで第二の桁が入る。三番桁までは桁受けに取付けられ、かくして五列の拱助をつくる桁は順次重なり、端梁が入り、つめ木によって桁の挾角は充されかくて両側より九桁まですすむといよいよ大棟木を入れる。架

橋の材料ができると、陸組といわれている仮組立をする。この仮組立は鉄橋の架橋の場合には行われるが木造の橋にはやられない。ただ錦帯橋のみは昔から行われており、それほど、この橋の組立には特色があって、本組立の時に間違いがあつては架橋に支障をきたすからだ。

橋は各々五列の拱助からできた「弾性アーチ」の形式により構成され、拱助は主として小さな断面の木材を三段又は四段に重ねたもので、木と木の組合せによって支えてあり、巻金と鋸の他は一本の釘も使わないのが特色である。

五列の拱助ができるとその拱助を横に貫いて端梁を

橋工事中の最も重要な作業に入ることになる。

人の動きも何となくあわただしくなり、大棟木が多勢の人によって運れて来た。

大棟木を中心に棟梁が集って来る。

52 模 型

模型による構造の説明、特に大棟木について――

53 夕景の空と川

陽が沈んで、対岸の山裾から夜がしのびより、夕もやが川に立ちこめる。

54 橋の上にも夜がせまる。

電燈がアーチ型に点々として美しい。

大棟木を前に棟梁が緊張した顔で目測している。やがて棟梁の命令で木の両端が切られる。拱助がジャッキで押上げられる。大棟木が大工さんの肩で桁に組まれる。美事に入った棟梁の顔がほっとした喜びにほぐれる。

(F・O)

入れる。これは各拱助の間隔を保ち、水平の震動を防ぐもので、このようにして作業はすすみ、両方の九番桁が出来ると、架橋工事の中で最も重要な大棟木を組入れるのである。これは拱助の真中で唯一つの連続する部材で、橋の中央で重量の殆ど全てを支えるため橋の中で最も重要なところであるから、この取付けに失敗することは架橋に失敗するわけであるから棟梁の責任は重大である。

しかも大棟木の長さの最後の決定は、その場にあたって、これまでの拱助の状態をみた上で棟梁の経験とかんによる以外に方法がないために、その苦心は一通りでない。大棟木を組込む前に四より八番までの各桁の位置を正確に直し、ジャッキで両桁を上げる。そしていよいよ大棟木の長さが決まり棟梁の命令でその両端が落され、組込みされた。

55 朝だ。今日もまた作業はつづく、昨夜の大棟木につづいて十番桁、小棟木、十一番桁がかかって拱助は完成したわけである。

56 肋木、鞍木、振首、平均木、銅板、橋板コルター詰め等の作業はすすむ。

57 橋脚上部の仕上げも完成した。

58 葺板、高欄も昔のままの姿で復原した。

59 完成された橋、美しい姿の数々。

60 渡り初め式
大名行列がゆく、架橋関係者が渡る、棟梁の顔もかがやいている。

61 錦帯橋

見事に復原した日本三奇橋の一、岩国錦帯橋の全景。
——カメラ靜かにトラックバックして——

T 終

小棟木は大棟木と同じ材料で作られ、大棟木の後で十番桁の先より中央まで、その後十一番桁を入れて拱助は完成するのである。

錦川の流に昔のままの美しき姿をもつて復原した虹のような錦帯橋。それは現代橋梁力学を三百年以前に我が民族が描き出した。世界にほこるべき技術であり、高い芸術作品である。我々は今こそ高らかに我が民族のほこりをうたい上げるとともに、民族の文化を守りさらに高めるために日本の独立と平和を強く守らねばならない。

(2) 重要参考資料の保存措置

錦帯橋再建工事に關する図書が岩国市役所に保存せらるべきは当然のことに屬する。従つて之等の保存については前述したところであるが、そのみでは長年月の間に或は紛失し或は毀損することもあり得るし、一般人の閲覧にも不便な点が多い。仍て將來の重要な参考資料となるもの又は再建記録の興味ある裏付となるものは永久的に確實に保存し何時にても一般の観覽に供し得る状態におくことが望ましい。仍て左記物件は岩国徴古館に保管を委嘱することにした。

イ 図 書

- (一) 工事設計書（最終設計のもの） 二部
- (二) 工事設計図（新旧比較対照図を含む） 一揃
- (三) 渡初式々辞及び祝辞 一四通
- (四) 完工式々辞、祝辞、工事報告 四通
- (五) 橋体の撓度及び振動試験報告 一冊

ロ 写 真

- (一) 錦帯橋再建記録写真帖 一冊
 - (二) 新旧錦帯橋全景写真 二葉
 - (三) 渡初式典写真 二九葉
渡初三組夫婦の写真及び盛典状況写真中代表的なものを採収す。
 - (四) 炬火籠点火の錦帯橋夜景写真 一部
- ハ 地質断層箱 四箱

橋脚基礎施工上の重要資料となつた地質調査四ヶ所の断層縮尺図

ニ 白蟻被害状況標本

一長

白蟻の為腐朽した曳入桁の一部を標示するもの。

ホ 防腐処理関係資料

(一) P・C・P 注入標本

一揃

錦帯橋用材に如何なる種類のを注入すべきかを研究した当時の資料で、此の標本は佐藤武夫博士指導のもとに広島山陽木材防腐株式会社坂防腐工場技師長服部守一氏製作す。

(二) 防腐剤 (P・C・P) 及び固着剤 (硫酸アルミニウム) 各一瓶

ヘ 第一、第五橋々板継目エラストイト施工現寸型

一個

ト 橋体工専用器具

(一) 橋桁締付具

二個

橋桁組立には一切釘を使用せず此の器具で重ねた橋桁を締付け、鏝止めをする。大、中、小三種の中二種を錦帯橋架設協同組合より寄贈せるもの。

(二) 検収刻印

一個

木材検収の際合格を証する為用材に押捺す。

チ 旧橋々体実物

(一) 拱橋々桁

一連

分解保存す、組立れば一連の橋桁を構成する、流失後回収した残骸より選出す。

(二) 高欄兜金 (銅製) 及び親柱

一基

旧橋残骸中完全なもの一基を保存す、現高欄形式と比較対照し、そのありかたにつき批判するには良い資料なら

リ
発掘された考古品

(一) 工具類

一箱

再建工事中第一、二橋脚附近より発掘した工具、刀剣類と思われる品々を一箱に一括標示す。

(二) 杭柱先端部

二個

再建工事中普通橋脚基礎部より発掘す、数十個の中より二個保存す、往時の普通橋脚は受石等なく柱を杭打せしことを実証するもの。

(3) 現寸型板の縮尺図作成保存

縮尺図作成の目的、事由等については第二編工事（橋体工事の「現寸図作成」の項を参照のこと）

この縮尺図は建設局工務課技術吏員五名を以って約一ヶ月間作業を続行、完成したものである。

(4) 残存物件の処分

工事が細密な設計に基き、厳正に施工されても之が資材に過不足の生ずることは当然にあり得る。錦帯橋の再建工事に於いてもその工事の規模が大きいだけに残存物件も可成りの数量に達した。但し錦帯橋の工事に於ける残存物件は後述する如く必ずしも直接の工事用材の余剰のみを意味するものではない。而して之等の残存物件は直ちに施工者たる岩国市の所有に帰属し、その処分によって得たる売却代金が岩国市の収入となるものとは限らない。いう迄もなく今回の再建工事は市の単独支出によつて行われたものではなく、国庫負担金、各種補助金による合併工事であるから、その処分及び売却代金の処置は法令の定むる所に従い又は之に準じて行われなければならないのである。即ち之等の残存物件は各その負担区分に従い種類、数量、処分方法、売却金額等を明確にし、売却代金の帰属を決定することになる。尤も此の場合文化財保護委員会及び山口県に対しては、その補助金、助成金の性質から見て考慮の要はないので結局帰属する

ところは国庫（建設省）か岩国市ということになる筈である。

イ 残存物件の区分

錦帯橋再建工事に於ける残存物件を大別すれば左の通り区分し得る。

(一) 工事に充用する資材にして過剰の為残存したもの。

之に該当したのものとしては鉄筋屑、銅屑、木材であるが、右の中、鉄筋屑はルース台風の被害を受け流失後回収したが使用不能となつた不用品及び切屑、銅屑は拱橋用及び高欄兜金用銅板切屑、木材は一部は彎曲の為取替した樺材、大部は削代等で材として完全なものではない。

(二) 工事中必要としたが工事終了に伴い不用となつた施設。

木材格納倉庫、雑倉庫、建設局事務所、電動設備、仮橋等が之に属する。右の中事務所一棟、倉庫一棟は市費負担に於いて建設し、工事終了後無料休憩所に転用した為売却処分との対照とはしなかつた。

(三) 旧橋の残骸を整理した古材

旧橋残骸を解体して古木材、古鉄、古銅に分類保存したもの。

之を更に国庫負担対照のもの及び単独市費負担対照のもの、兩者負担比率により按分するもの等に区分して処分す。

ロ 処分方法

残存物件は市費負担により建設された一部建物を除き総て売却処分し附した。売却の方法は原則として公示又は指名による競争入札としたが、一部有利とするものについては随意契約による売却をも併せ行うこととした。売却は工事終了に伴い昭和二十八年三月より建設局解消迄に大部終了したが、一部は残務整理として実施、同年七月三十日を以つて完結した。

国庫負担、市費負担別の残存物件処分実績の詳細については次の残存物件処分表、同処分一覧表を参照のこと。
 尚売却価格は入札及び随意契約による場合共、原価、償却、損傷等を参酌し建設省所定の方式に則り算出、市長の決
 裁を経て決定し、取引の公正を期したことは云う迄もない。

附 表

残 存 物 件 処 分 表

- 一、国庫補助対照
 - 二二〇、〇七一・〇〇
 - 八四五、七〇八・〇〇
- 二、単独市費対照
 - 一、〇六五、七七九・〇〇

※補助対照分は国庫負担施行令十条に因り売却した価格を法十二条第一項により剰余金に戻入し精算金額より差引く。

残 存 物 件 処 分 一 覧 表

名 称	数 量	位 单	購 入 単 価	購 入 金 額	支 出 年 度	支 出 科 目	購 入 月 日	購 入 先	処 分 月 日	処 分 方 法	処 分 先	処 分 単 価	処 分 価 格	備 考
層鉄筋	四六・〇〇	庇							五・八	指名競争	日野組 K・K	三、〇〇〇	九、二五〇・〇〇	一六耗……二二三庇 二米以上……二四九庇
〃	二、九七・〇〇	〃							五・八	〃	岩根 文一	〇〇〇・〇〇	三、一四九・〇〇	一六耗……一六二庇 二米以下……二九六庇
銅 層	四六・〇〇	〃							三・三〇	公示競争	大石 武雄	一、一〇・三三	一、五〇・〇〇	—
木材倉庫	二坪		八六、一〇〇・〇〇	八六、一〇〇・〇〇	二六	一・一	二・一七	片倉寅吉	三・三	公示競争 意	日野 賢	一、一七	一、五〇・〇〇	—
	二坪		八六、一〇〇・〇〇	八六、一〇〇・〇〇	二六	一・一	二・一七	片倉寅吉	三・三	公示競争 意	日野 賢	一、一七	一、五〇・〇〇	—

計	電力計算	削代(素材)	削代	電動設備	削代(薪)	橋組立体	雑倉庫	〃
	一	二四・四〇	一〇九・二〇	一・〇〇	二五	一	四	二一
	基	〃	石	式	石	組	〃	〃
						三一、〇〇〇・〇〇	五八、七〇〇・〇〇	八六、一〇〇・〇〇
						三一、〇〇〇・〇〇	五八、七〇〇・〇〇	八六、〇〇〇・〇〇
						二天	二天	二天
							二、一四五	二、一四
						二七・二〇	〃	〃
						〃	〃	〃
	六・一三	二八	二八	二八	二八	〃	〃	〃
	六・一三	五・三〇	五・三〇	六・一三	三・三五	〃	〃	〃
	随意	〃	〃	指名競争	公示競争	〃	〃	〃
	八木興業 K・K	染川 操	片倉 寅吉	中国電氣工 事K・K	藤井 兼次	〃	〃	〃
		七五〇・〇〇	石当り 四八・〇〇		一三六・六二、〇五〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
	六、〇〇〇・〇〇	一八、〇〇〇・〇〇	四八、〇〇〇・〇〇	三三、〇〇〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
	一一〇、〇〇〇・〇〇		九二、〇〇〇・〇〇	〇〇〇・〇〇	〇〇〇・〇〇	〇〇〇・〇〇	〇〇〇・〇〇	〇〇〇・〇〇

残存物件処分一覽表

名称	数量	單位	購入単価	購入金額	支出年度	支出科目	購入月日	購入先	処分月日	処分方法	処分先	処分単価	処分価格	備考
錦帯橋	一	橋								公示競争	日野組 K.K			橋長八九米 巾一四米 一三四・六米 (木造)
変圧器	单相二基	基	三〇,〇〇〇・〇〇	六〇,〇〇〇・〇〇	二六	一・二四	二六・四・三	エビス電工 K.K 益雄		指名競争	日興土木 K.K 賢	六〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	三三K 单相二基 日立、芝浦
鉄屑	一、四四〇・〇〇	吨								公示競争	中村武雄 K.K 叶一	二九・一七	二九・一七	
"	四、六四〇・〇〇	"								"	大石 K.K 武雄	一八、	四九〇・四八	
"	一、〇三五・〇〇	"								"	綾本竜会	一六、	九〇八・二	
和鉄屑	一、七〇六・二五	"								隨意	岩雄 K.K	一八、	三三、	
銅屑	一、〇五〇・〇〇	"								公示競争	中川博	二五、	二六八、	
古材(薪)	八三	石								"	藤井兼次	七五・九〇六、	三〇〇・〇〇	
"	三五	"								"	"	一一八・五七四、	一五〇・〇〇	
"	一一五	"								"	"	八六・九六	一〇、	
"	五〇	"								"	篠原経一	四七・〇〇二、	三五〇・〇〇	
"	五〇	"								"	藤井兼次	八〇・〇〇四、	〇〇〇・〇〇	
"	三三	"								"	妹尾一兵衛	二〇四・五四四、	五〇〇・〇〇	
古銅鉄	三三三・〇〇	本								指名競争	阪根産業 K.K 建二	三・六〇一、	〇七二・〇〇	

合計	小計	〃	〃	〃	雑品	〃	古木材	小計	古木材	古銅鉄	銅板屑	〃	〃
		一〇、〇四・〇〇 (古軌条)	七五・四二 (古鉛)	五〇〇 (有刺鉄線)	三三 (オックス)	七・七四	二〇・六石		五、四二・〇〇 10 石	五、七六〇・〇〇 本	二、四六・二〇 瓦	二五〇・〇〇 瓦	一、一五〇・〇〇
		〃	瓦	米	本	〃	石		石	本	瓦	瓦	〃
					九二・〇〇								
					三、〇四六・〇〇								
					二七								
					一、一 二、二四								
					清水 商会								
		〃	七・五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		日野賢	岩根文一	笹井克巳	清水商会	末岡勝一	P.T.A	築港小学校	越智鶴治	小松忠夫	〃	〃	〃
		三、〇〇〇・〇〇	七五・〇〇	米当り 六・〇〇	本当り 九二・〇〇	本当り 三、〇三六・〇〇	四、一〇〇・〇〇	四、一〇〇・〇〇	石 四、一〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	一、〇〇五、七六〇・〇〇	四、一三・七	三、〇〇
		一、〇〇〇・〇〇	五、六五六・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇三六・〇〇	七、四・〇〇	三、一	七、八・〇〇	三、二	六、二六・〇〇	五、七六〇・〇〇	八、五五・〇〇	七、五〇・〇〇
		七、〇〇・〇〇	三、九六・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇三六・〇〇	七、四・〇〇	三、一	七、八・〇〇	三、二	六、二六・〇〇	五、七六〇・〇〇	八、五五・〇〇	七、五〇・〇〇
		七、〇〇・〇〇	三、九六・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇三六・〇〇	七、四・〇〇	三、一	七、八・〇〇	三、二	六、二六・〇〇	五、七六〇・〇〇	八、五五・〇〇	七、五〇・〇〇
		七、〇〇・〇〇	三、九六・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇三六・〇〇	七、四・〇〇	三、一	七、八・〇〇	三、二	六、二六・〇〇	五、七六〇・〇〇	八、五五・〇〇	七、五〇・〇〇

二、残務整理事項

昭和二十七年八月中旬第四橋架設開始によって主要工事完了の時期及び雑工事を含む全工程終了迄の業務量も略見透しがつて来たので逐次建設局の人員を整理し、四月一日以降は専ら雑工事及び業務整理の為に必要な人員のみを残置するに過ぎなかつた。

五月三日の完工式終了直後専門委員佐藤、青木両博士等の囑託の解嘱があり、更に建設局の業務整理も進捗し最早局を存置する必要もなくなつた為五月二十六日の臨時市会に錦帯橋建設局廃止の件を附議可決、五月三十一日を以つて建設局は解消し二年五ヶ月余に亘る錦帯橋再建事業は終末を告げたのである。

然しながら、(一)精算及び同関係図書を作成、(二)残工事の実施、(三)残存物件の処分、(四)工事の成工認定、会計検査、(五)雑務等多くの処理事項も残存している関係上改めて左の残務整理者を置き六月一日以降は引続き前掲業務の整理を担当せしむることとした。

元錦帯橋建設局次長	品川	資(本庁総務課附)
同 総務課次長	美川	武(同右)
同 工務課	中村	正男(同都市計画課勤務)

建設局廃止の為取敢えずその事務は本庁総務課に引継ぎ、総務課より漸次都市計画課、土木課、建築課、商工観光課、財政課、会計課等の所管課に継承された。

(註) 一、昭和二十八年度の予算は錦帯橋建設局(特別会計)としては特に編成せず(錦帯橋再建事業は昭和二十七年を以て完了することになっている)二十八年四月一日以降五月三十一日に至る建設局の支出及六月一日以降の残務整理は総て一般会計に於て賅われた。

二、錦帯橋建設特別委員会は昭和二十八年三月三十一日の再建工事完成と共に自然消滅した。爾後昭和二十九年途中迄残務整理は継続せられたが、その主要整理事項は其の通りである。

(1) 残工事の遂行

錦帯橋の再建工事は昭和二十八年三月三十一日を以つて竣工したのであるから、残工事があるべき筈がないのが当然である。事実右期限に所定の工事は総て完結したことに間違ひはないが、その後補修、追加工事の必要を生じ、然かもその多くは、時機を選ばねば施工が困難であるか、或は相当の時日をおいて、その結果を調査した上でなければ補修（手直し）の程度、施工ケ所の判定が困難な為建設局存置中に施工に至らず、止むなく残務整理として処置することになつたものである。而して之等は一部を除き原契約条項に基いて当該請負業者が自己の負担に於いて施工するものであつて、新たな契約により新たな経費を以つて実施されたものでないことは云うまでもない。残工事として処置されたものは次の通りである。

イ 河床々固補修

河床々固が今回の再建工事において全域に亘つて修復されたものでないことは既に述べたが、その修復を行った部分と旧状部分の接合点は稍もすれば出水時多少の損傷を受けることは予想し得るところである。果して工事終了後の出水で第一、第二、第四橋下側床固に小被害を蒙り、更に新に修復を加えねばならぬ箇所も発見された。然し河床々固の修復は七、八月の渇水期に施工するのを有利とするのでその時期に実施することになつた。

ロ 橋体不良部の補修

此の不良部分は設計又は施工の拙劣等に因つて生じたものではなく用材乾燥不十分のため施工後時日の経過と共に組立に狂いを生じ或は用材に亀裂を生じたことに起因する。或程度の狂いや亀裂は止むを得ないとしても、高欄、橋板等の如く外見上好ましくない部分は用材の締付、鉋掛け、ピッチの充填等により修正を行った。

ハ 右岸緑地の整備

錦帯橋建設局の事務所、附属倉庫の処置については、之を無料休憩所とすることに決定していたが、休憩所設置手

後に暇取り、解体移動が遷延した為その部分の工事が残されていた。即ち児童遊戯施設、植樹の一部は事務所及び倉庫の移転後実施した。

ニ 量水標の設定

量水標の設置は洪水時に於ける防災対策及び出水量記録上必要であるが、その設置場所如何は風致上、保存上相当考慮を要するものがある。種々研討の結果普通に行われている単独の量水標設置をやめ、風致を害せざるよう両岸橋台の上側張石の突角部に量目（五〇センチ毎）を彫刻して表示する方法をとった。

ホ 無料休憩所の設置

休憩所の設計、用地の借用手続は残務整理者に於いて担当しその後の解体移転及び設置工事は建築課、商工観光課の所管として実設され昭和二十年十二月上旬設置完了した。

(2) 工事費の精算

昭和二十七年年度終了と共に同年度の決算は勿論、錦帯橋再建工事に関する総合的な精算をも併行して実施すべく着手したのであるが、此の精算は年災別、年度別、負担別に計数整理の必要があるばかりでなく、建設省（山口県）、文化財保護委員会、会計検査院の査定乃至会計検査の方針が一致していない為に複雑を極め、且第一編工事費財源の項に於いて概説した如く国庫負担金、文化財補助金支出に特殊の事情が介在し之等官庁の精算方法に対する見解も確定しないところがあり、遂に建設局解体迄には精算の終結を見ず、その業務は残務整理に持込まれることになった。その後建設省文化財、会計検査院係官の協議により精算方針も明確化し、精算業務は急速に進捗、七月末には漸く終了を告げたのであるが、その結果の概要については前掲した諸表に示す通りである。

(3) 精算設計書の編纂

当初の設計書は所謂予算設計書である。此の予算設計書は中絶となり、竣工設計書の編纂、関係工事、関係機関等について

つて長多の委遷を生じ、そのまゝの形態では諸事種再建工事の全般を通じ、この設計が設計の形を、また、監査を以て施工されたかが、明確に把握不可能である。仍て前述の工事費精算も完結したことであるから茲に改めて精算設計書を編纂し、何人と雖も一目して実際に施工された工事の内容殊に計数的基礎に立つ工事の全貌を明かにすることはただに關係官庁に対する報告或は検査の場合に於ける重要な説明資料たるに止まらず、将来への貴重な文献、記録ともなることを信じて疑わない。残務整理者は昭和二十八年七月より三ヶ月余精魂を尽して、この設計書の編纂に専念し、印刷製本の上同年十月關係方面への配布を終了することが出来た。此の名勝錦帯橋災害復旧工事精算設計書は

一、沿革

二、収支決算表

イ 国庫負担金収入状況

ロ 災害各年別工事費支出一覧表

ハ 災害各年別事務費支出及び費目別支出明細表

三、請負人氏名及び請負金額対照表

イ 各年災及び各年度別請負契約一覧表

四、精算設計書

イ 昭和二十五年災害

ロ 昭和二十六年災害

五、支給資材購入及び支給区分一覧表

六、工事仕様書

七、残存物件処分一覧表

の各項より成り約五百頁に及ぶ浩瀚なものである。その設計書の内容は、工事毎に実施設計金額、請負設計金額、請負人氏名を表示し、之が工事の内訳として工種別、名称別の材料、数量、単価、金額を細記すると共に契約書を附して簡明を期することにしたが、その一部概要は必要に応じ本書の各所に次表或は別表として引用している。

精算設計書の編纂によつて岩国市としての残務整理は一応完結した訳であるが監督官庁の成工認定その他各種の検査未了の爲その後も尙約六ヶ月間残務整理者をおき之に備えた。

(註) 六月一日任命された三名の残務整理者中美川武は精算設計書編纂終了後の十一月一日水道課次長に転任となり、中村正男は都市計画課を本務とするに至つたので昭和二十八年十二月上旬以降残務整理は事実上閉鎖の形になっていた。